



TITLE:

研修員 日本学術振興会奨励研究員
受託研究員 所内談話会記録 公開講
座 夏季セミナー(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

CITATION:

研修員 日本学術振興会奨励研究員 受託研究員 所内談話会記録 公開講
座 夏季セミナー(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1990, 20: 33-35

ISSUE DATE:

1990-08-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164177>

RIGHT:

大学院学生（平成元年度）

霊長類学専攻

氏 名	学年	指導教官	研究テーマ
五百部裕	D 4	加納隆至	ビグミーチンパンジーのオスの社会学的研究
佐倉 統	D 3	杉山幸丸	チンパンジーの音声コミュニケーション、性行動、社会行動などに関する行動生態学的研究
伏見貴夫	D 3	久保田競	霊長類のコミュニケーションに関する実験的研究
室山泰之	D 3	杉山幸丸	パタスモンキーの社会生態学的研究
大石高生	D 2	久保田競	前頭葉の機能と伝達物質の関係について
小林秀司	D 2	江原昭善	ティティ属（Genus Callicebus）3種の系統関係
高井正成	D 2	江原昭善	南米コロンビアのLa Venta地域産出の霊長類を含む中新生化石哺乳類について
山下晶子	D 2	大島 清	神経系の個体発生
井上美穂	D 1	竹中 修	DNA多型を用いたニホンザルの父子判定
鈴木良太	D 1	野澤 謙	分子進化によるテナガザルの系統解析
中村克樹	D 1	久保田競	情動や記憶における扁桃核のはたらき
Soumah Aly Gaspard	D 1	杉山幸丸	高崎山におけるニホンザルの採食戦略
小林 隆	M 2	加納隆至	都井岬の半野生馬の社会生態学的研究
河本敏男	M 2	久保田競	頭頂連合野の入出力関係の研究
松村秀一	M 2	加納隆至	ニホンザルオス間の社会的相互作用
橋本千絵	M 2	加納隆至	野生ニホンザルの採食戦略

宮地剛士	M 2	久保田競	前頭前野における視覚性刺激のはたらき
植木 浩一郎	M 1	久保田競	随意運動の発現機構の研究
小川秀司	M 1	加納隆至	チベットモンキーの社会学的研究
揚妻直樹	M 1	加納隆至	ニホンザルの採食行動と食物の生産性
大野央人	M 1	杉山幸丸	チンパンジーの社会的相互作用

研 修 員

氏 名	指導教官	研修題目	研修期間
広谷 彰	杉山幸丸	大型哺乳類の社会生態学及びヒトとの関わりに関する研究	63.11.25 ~元.4.24
芝原総子	杉山幸丸	ニホンザルメスの血中性ホルモンレベル動態と性行動との関連性について	元4.1 ~2.3.31
鮑 秀芳	野澤 謙	霊長類の健康管理に関する生化学的及び細菌学的分析	元.10.1 ~2.9.30
西川貴士	大島 清	哺乳類脾臓の初期発達について	元.6.1 ~2.5.31
李 葆明	久保田競	サルの前頭葉の神経細胞活動と行動の関係	63.6.4 ~元.6.3
ケシア ベンベヌート	松沢哲郎	チンパンジーの言語・認知機能の実験的分析	元.6.15 ~元.9.12
竹中晃子	竹中 修	マカカ属グロビン遺伝子と遺伝子重複	元.8.1 ~2.7.31
瀬戸口 美恵子	加納隆至	小哺乳類（特にタイワンリス）の社会生態学的研究	元.8.1 ~2.7.31
謝 衛群	小嶋祥三	霊長類における文献の作成と整理	元.9.18 ~元.12.31

日本学術振興会特別研究員

氏 名	指導教官	研究題目	研究期間
吉久保 真一	松沢哲郎	マカク属における、種の認知行動と進化の機構に関する実験心理学的研究	63.4.1 ～元.9.30
三谷雅純	杉山幸丸	カメルーン熱帯雨林における樹上性霊長類の生態学的研究	63.11.25 ～2.3.31
大井 徹	加納隆至	マカク属における、メスの発情の季節性が社会関係に与える影響	元.3.24 ～2.3.31
古市剛史	加納隆至	霊長類集団間移動の生活史—「母系」社会と「父系」社会の比較研究—	元.4.1 ～3.3.31
中川尚史	杉山幸丸	西アフリカ・カメルーンの乾燥サバンナにおける霊長類の比較採食生態学的研究	元.4.1 ～3.3.31
杉倉昭二	松沢哲郎	チンパンジーによる社会的自由・他の認知と人称代名詞の使用に関する実験的研究	元.4.1 ～3.3.31

受託研究員

氏 名	指導教官	研究題目	研究期間
後藤 啓	中村 伸	霊長類の血液凝固因子に関する	元.4.1 ～2.3.31

特別研究学生

氏 名	指導教官	研究題目	研究期間
友永雅己	松沢哲郎	霊長類学習行動に関する実験的研究	元.4.1 ～2.3.31

所内談話会記録

- 第1回：平成元年4月20日
諏訪 元（京大・霊長研）「エチオピアの古人類学調査」
- 第2回：平成元年5月1日
呉 汝康（中国科学院古脊椎動物・古人類研究所）「最近の中国の古人類研究の動向」
- 第3回：平成元年5月26日
Douglas Bowden（Washington University Primate Research Center）「Experimental use and welfare of primates in Washington University」
- 第4回：平成元年6月28日
松沢哲郎（京大・霊長研）「中国新疆ウイグル自治区の山と人々」
- 第5回：平成元年7月21日
王 岐山（安徽大学）「安徽省黄山のチベットモンキーの生態について」
- 第6回：平成元年9月28日
吉久保真一（京大・霊長研）「おサルに関わった17年6ヶ月」
- 第7回：平成元年11月30日
松林清明（京大・霊長研）「モーリシャスの風土とサル」
- 第8回：平成2年2月7日
野崎真澄（京大・霊長研）「ニホンザルの季節繁殖リズムの発現機序」
（談話会係：目片文夫・正高信男）

公開講座

- 「霊長類の進化」
8月24・25日の両日にわたって公開講座を開催

した。今年は第5回目である。

参加者は中・高校教員が圧倒的に多いものの、会社員、薬剤師、主婦と幅広い。例年どうり大多数は東海地域在住者であるが、近畿や関東地域からの参加者もあった(定員80名)。今回は、霊長類の特徴を組織学、神経生理学、運動様式、動物社会学の観点から取り上げ、さらに人類の起源論へと話題を押し進めた。また、参加者全員に対し実習を行い、自分自身で研究の現状が理解できるよう配慮した。

講義題目と講師は以下のとおりである。

総合司会 相見 満

歯の内部構造	野上 裕生
視覚認知と記憶	三上 章允
サルの歩き片	木村 賛
社会進化と家族の起源	加納 隆至
染色体実習	石田 貴文
骨学実習	毛利 俊雄
神経生理学実習	久保田 競
心理学実習	松沢 哲郎

夏期セミナー

学部学生を対象とした夏期セミナーを、今年初めて開いた。当初20名の募集定員を、余りにも盛況だったので、受け入れ限界の40名に増やした。北は東北から南は鹿児島まで、予想以上に多くの大学からの参加がたあった。

プログラムは次の通り。

7月28日(金)

所長あいさつ

- 10:00-11:00 形態基礎研究部門(毛利俊雄)
- 11:00-12:00 系統研究部門(相見満)
- 13:00-14:00 心理研究部門(松沢哲郎・正高信男)
- 14:00-15:00 社会研究部門、ニホンザル野外観察施設(加納隆至・渡辺邦夫)
- 15:00-16:00 生活史研究部門(杉山幸丸)
- 16:00-17:00 所内見学
- 19:00- 懇親会

7月29日(土)

- 9:00-10:00 変異研究部門(庄武孝義)

- 10:00-11:00 生理研究部門(目片文夫)
 - 11:00-12:00 生化学研究部門(竹中修)
 - 13:00-14:00 神経生理研究部門(久保田競)
 - 14:00-15:00 サル類保健飼育管理施設(松林清明)
 - 15:00-17:00 総合討論(各関係教官)
- セミナーは好評で、参加者の中から毎年続けてほしいとの意見が出てくるほどだった。

学位取得者と論文題目

理学修士(霊長類学専攻)

- 小林 隆: 都井岬の半野生馬における集団構成と雌雄間の社会的交渉の季節変化
- 松村秀一: ニホンザルワカオスの隣接群個体との相互交渉および隣接群への移籍
- 橋本千絵: 野生ニホンザルにおけるオトナとコドモの採食行動の違いについて
- 河本敏男: 視覚的到達運動(visual reaching)における頭頂連合野のニューロンの役割